
編集後記

本巻では特別寄稿として“みんなが「楽しく」「安心」「安全」に『食べられる』の深掘りと仕掛け”と題し、地域での食支援の壁について様々な課題とその解決についてご提案を頂きました。一般投稿論文では、パーキンソン病患者に対する新たな在宅ニューロリハビリテーションについての研究、心不全患者が安心して在宅に戻れるための取り組みとして病院における心不全療養指導チームの活動に関する投稿、在宅要介護高齢者が抱える摂食嚥下障害の現状と課題についての調査研究など複数の投稿があり、在宅リハビリテーションに関して多岐にわたる内容を収録することができました。

特別寄稿の著者である笠井氏のご自身も障害が在る当事者でありながら、摂食嚥下障害にかかわるプロフェッショナルである言語聴覚士として、地域の中で誰も取り残さない「食」の未来を実現するための取り組みを進めておられる。その前には沢山の壁がありますがその壁を乗り越えるためには、地域の当事者に関わる地域住民やプロフェッショナルにより熟慮された（considerate）末の知恵を互いに共有することが大切であると感じました。

地域の中で誰も取り残されない「食」の未来が実現できることを願うばかりです。

令和8年2月5日

京都在宅リハビリテーション研究会 世話人代表 木村篤史

京都在宅リハビリテーション研究会誌

第19巻

令和8年2月11日 発行

編集者 京都在宅リハビリテーション研究会事務局

発行者 木村篤史

〒629-0392 京都府南丹市日吉町

明治国際医療大学附属病院 総合リハビリテーションセンター

Tel 0771(72)1221